

## 第1回 熱海市図書館協議会 議事録

日時：平成29年3月30日 10時～11時10分

出席者：教育長

井上委員・諏訪村委員・三島木委員

野崎委員・櫻井委員・山口委員

木村館長・橋本室長・内藤主幹・望月職員

井上職員

山田新館長・鈴木新室長・川口新主幹

教育長： この会が立ち上がったことは喜ぶたい。県下でも後ろから2～3番目でこの会が立ち上がった、これは行政としては大変恥ずかしいことですが、これから図書館ことで話し合っ、ご意見をいただけるということで心強く思っています。本年度はこれで終わりですが、あと2日すると新しい年度に入ります。教育委員会のほうでは定例の協議会というのが毎月1回ありまして、その中でH29年度の教育行政の基本方針と主要施策を検討した中で図書館の部分を取り出してまいりました。

～教育長より施策の概要・主要施策について説明～

この協議会についてはこれらのことを踏まえながら、現在の図書館についてお話しただくことになると思います。その中でこの協議会を上げて大いにお話しただきたいことというのが、図書館の利用する人数が減ってきているということです。これは教育委員会でも大きく問題になりました。たとえば例を上げると、貸出人数のH24年～28年までの数字を出してもらっています。教育委員会の中では前年に比べてどうか？という話しかしていないが、僕はそうではないと思っています。H28年の4月の人数は3,038人の貸出人数がありました。前年は3,090人でほぼ同じ、統計的には98.3%の貸出人数ということで出ています。ところがH24年と比べると4月は3,371冊。これをH28年と比べると大体90.1%です。2月は2,149冊であり、前年は2,395冊、率にして89.7%と出ています。それがH24年の2月にさかのぼると3,465冊貸し出しがあり、これと今年度の2月を比べると62%にしかになっていない。だんだん月が進むにしたがって、H24年比で段々貸出率が下がっている。僕はここのところをきちっと考える必要があるのではないかと考えている。ただ言えることは、この図書館は前に東京電力があった場所であり図書館として作られ

た場所ではない。このため不利な点がたくさんある。ただ不利な点がたくさんある図書館でもやっていけることはきちっと考えていかなければならないと思います。今日お集まりいただいた委員の皆様にはその現状を捉えながら、また、昨年度100周年事業がありました。あのときこの図書館は盛り上がりました。その盛り上がりというのは一般の方・学生さん・幼児などいろんな方たちの協力を得て、そういう人たちが協力してくれて、すごく良い感じの100周年の年間行事が行われてきたと思います。今年度以降それをただ踏襲するだけではだんだんと魅力がなくなってくると思います。一番大切なことは図書館が図書館だけで考えるのではなく、図書館にかかわっている人たちと一緒に話をする中で協力してもらえるもの、あるいはここで独自にやらなければならないこと、それを踏まえながら、施設としてはあまり恵まれたところではないがこの施設を十分に活用していくことに視点を当ててこの協議会でお話していただきたいと思います。H29年度の人事異動で変わる部分もあるが、そういう中で、今後の始点になるような話を期待しています。よろしくをお願いします

事務局： ありがとうございます。それでは委嘱状の交付を行います。教育長が席まで伺いましたらその場でご起立願います。

～委嘱状交付～

事務局： 任期につきましては、本日より2年間となっております。よろしく申し上げます。続きまして。この図書館協議会は新しく始まる会でございます。委員の方々も全て新任の方でございますので、名簿の順に自己紹介をお願いします。

～各委員 自己紹介～

事務局： ありがとうございます。次に職員の紹介をいたします。

～木村館長・橋本室長・内藤主幹・望月職員・井上職員自己紹介、引き続き新任の山田館長・鈴木室長・川口主幹自己紹介～

事務局： これより会長副会長の選出でございます。会長・副会長が決まるまで、三田教育長が仮の議長を務めます

～教育長、議長席へ～

教育長： それでは説明させていただきます。ただいま委員の皆様にご自己紹介をしていただきまして、本当に素晴らしい委員の皆様にご集まっていたいただいたなと思います。それでは熱海市立図書館条例第9条によると、会長・副会長は互選によって定められています。最初に会長の選出をしたいと思っております。これについてどなたかご意見はございませんか。

委員： 会長は校長会推薦の井上委員にお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか？

教育長： 今そのような声が上がっていますがいかがでしょうか？

～異議なしの声～

教育長： それでは井上委員に会長をお願いしたいと思います。それでは副会長の選出に移りたいと思いますが、どなたかご意見があればお願いします。

委員： 会長に一任されてはいかがでしょう？

会長： ご存知の方もいますし、そうでない方もいますが、もしよろしければ図書館にお詳しい野崎さんをお願いしたいと思います。

教育長： ただ今、会長に井上委員、副会長に野崎委員の名前が上がりました。よろしいでしょうか。

～異議なしの声～

事務局： それでは会長・副会長はお席のほうへ移動をお願いします。

～会長・副会長が席へ移動～

事務局： 正副会長が決まりましたので、簡単にご挨拶をお願いします。

会長： 熱海で30年近く教員をやってきましたが、別の面として地元の小田原で歴史のほうをずっとやってきました。20年くらい小田原の市史編纂に関わってきました、通史を書いたり資料編を出したりしてきました。そうした面で色々な図書館に行って情報を得たりしてきました。その中で思うのは、4月に熱海の温泉誌が出ることで熱海図書館の位置づけも変わってくるのかと思います。研究者の方たちの注目がくるのかもしれない、歴史をやってきた者としてはそういう風な思いがあります。熱海温泉誌ができたことでその辺りの役割も変わってくるのかと思います。主は市民であります、それと同時に全国の研究者の方への対応も積極的にやっていくべきだろうと、委員を任命されてから思っていたところです。委員の皆様の協力をいただきながら、事務局とも積極的にコミュニケーションをとりながら、より良い熱海市立図書館を目指して微力ながらがんばらせていただきたい。

副会長： 皆さんからのご協力あって務めが果たせると思いますので、皆様からご協力いただきたいと思います。それぞれのお立場で現場を知っている皆さんですので、その活動の中から図書館がどう結びついていくかを知りたいので、皆さん1人1人にお話を聞かせていただくこともあるかと思いますが、よろしくをお願いします。井上先生からお話がありましたが温泉誌が出ることで、図書館はかなりクローズアップされます。図書館は郷土資料の情報提供の義務があります、保存の義務もあります。そういったことと温泉誌が世に出たこととがどう結びつくのか、そこを結ぶのは人なんですね、なので私はスタッフのことについては手厳しいことを言うかも知れませんが、図書館は人の問題であると思っています。受け皿である図書館がどこまで受け皿たる用意ができているのか？その発信のコアになるものはなんなのか？そのような顔

の見える図書館、目指すところが見える図書館になってほしいと思います。全国の図書館のナンバーワンになれとは言いません。オンリーワンの熱海温泉都市としての顔の見える図書館を作っていただきたい。それを現実化できるお手伝いができたらと思っています。

事務局： ありがとうございます。2年間よろしく申し上げます。ではこれより第1回協議会の議題に入ります。これより先の進行は井上会長から申し上げます。大変申し訳ございませんが、三田教育長は公務がございますのでこちらで退席させていただきます。

～教育長退席～

会長： ではこれから第1回の協議会ということで議題に入りたいと思います。事務局の方よろしく申し上げます。

事務局： それでは議題の1番、図書館協議会の役割について、木村館長お願いします。

～木村館長より図書館協議会の役割について説明～

事務局： 次に議題2番、図書館資料および利用状況報告について、管理室の橋本室長よりご報告いたします。

～橋本室長より報告～

事務局： 次に議題3番、H29年度の図書館協議会開催予定について木村館長より説明をお願いします。

～館長より協議会は年3回、うち1回は11月6日（月）開催の静岡県図書館大会であり、図書館内では2回の開催となることを説明。なお次回開催日は協議の結果、次回開催は8月9日（水）の午前10時開催と決定～

事務局： 次に簡単に図書館内の視察をしていただきたいと思います

～館内視察へ～

事務局： 続きまして何かご意見ご質問等ありましたらお受けいたします。

～特に無し～

事務局： よろしいでしょうか。それでは、第1回図書館協議会を終了させていただきます。ありがとうございました。